

## リハビリテーション病院における 脳卒中リハビリ実態アンケート調査を実施（2016年）

### 【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にて脳卒中リハビリテーションに関する病院アンケート調査を実施した。

1. 調査期間: 2016年5月～6月
2. 調査対象: 国内のリハビリテーション科を診療科に持つ病院(集計対象85件)
3. 調査方法: 郵送(留置)アンケート方式

#### ＜本アンケート調査について＞

本アンケート調査では、国内のリハビリテーション科を診療科に持つ病院を対象として、脳卒中(脳血管障害)患者に対するリハビリテーションの実施状況(体制、スタッフ数、患者数、患者の評価方法、急性期リハビリ実施の有無、リハビリ期間、リハビリ利用機器・装具、車いす処方状況、リハビリ終了後の行先、課題・問題点など)についての調査を実施した。

分析に際しては、脳卒中リハビリ患者の全リハビリ患者数に占める比率、脳卒中リハビリ患者の年齢構成、脳卒中リハビリにおける課題・問題点等についてまとめた。

### 【調査結果サマリー】

#### ◆ 脳卒中リハビリテーション患者の比率が、過半数を越える施設は約3割

国内のリハビリテーション科を診療科に持つ病院(85件)に、リハビリテーション患者数に占める脳卒中リハビリ患者の比率を尋ねたところ、「75%以上」という回答が8.3%、「50～75%未満」が20.0%と、脳卒中リハビリ患者の比率が過半数を越える施設が約3割という結果になった。

#### ◆ 85歳以上の脳卒中リハビリ患者が、50%以上を占める病院は14施設

国内のリハビリテーション科を診療科に持つ病院(79件)に、脳卒中リハビリ患者の年齢構成について尋ねたところ、「85歳以上」の患者が75%以上を占める施設が7施設、50～75%未満が7施設であった。また、「75～84歳以下」の患者が75%以上を占める施設が4施設、50～75%未満が14施設となり、約2割の施設で75歳から84歳以下の高齢者が過半数を越えた。

#### ◆ 脳卒中患者のリハビリにおける課題・問題点は、「今後の点数減少」が40.2%、 「退院後の患者情報の把握」が35.4%、「人手が不足している」は30.5%

国内のリハビリテーション科を診療科に持つ病院(82件)に、脳卒中患者のリハビリの課題・問題点を尋ねたところ、「今後のリハビリ関連点数の減少」が40.2%と最も高く、「退院後の患者情報の把握(35.4%)」、「リハビリをする人の不足(30.5%)」、「現在のリハビリ関連の点数が低い(29.3%)」が続いた。現在のリハビリテーションの実施内容は人的サービスであり、今後、人手の確保とともに、さらに効率的な運営が求められていくと考える。

#### ◆ 資料体裁

資料名:「脳卒中リハビリに関する調査 2016年版」  
 発刊日:2016年10月31日  
 体裁:A4判 212頁  
 定価:120,000円(税別)

#### ◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地:東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長:水越 孝  
 設立:1958年3月 年間レポート発刊:約250タイトル URL: <http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先(当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>)

(株)矢野経済研究所 マーケティング本部 広報チーム TEL:03-5371-6912 E-mail:[press@yano.co.jp](mailto:press@yano.co.jp)

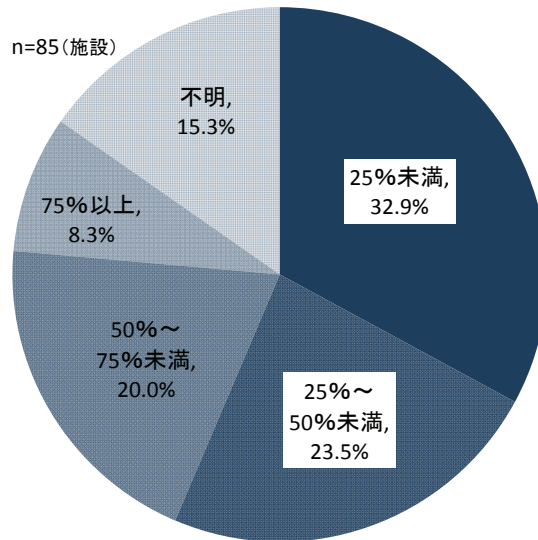
本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。  
 本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報チーム迄お問合せ下さい。

【 調査結果の概要 】

1.脳卒中リハビリ患者のリハビリテーション全患者数に占める比率について

本調査では、国内のリハビリテーション科を診療科に持つ病院に対して、脳卒中(脳梗塞、くも膜下出血、脳内出血などの脳血管障害)リハビリテーションの状況について、アンケート調査を実施した。リハビリテーション患者数に占める脳卒中リハビリ患者の比率について、病院 85 施設へ尋ねたところ、「75%以上」という回答が 8.3%、「50~75%未満」が 20.0%と、脳卒中リハビリ患者の比率が過半数を越える施設が約 3 割という結果になった。

図 1. 全リハビリ患者数に占める脳卒中(脳血管障害)リハビリ患者の比率



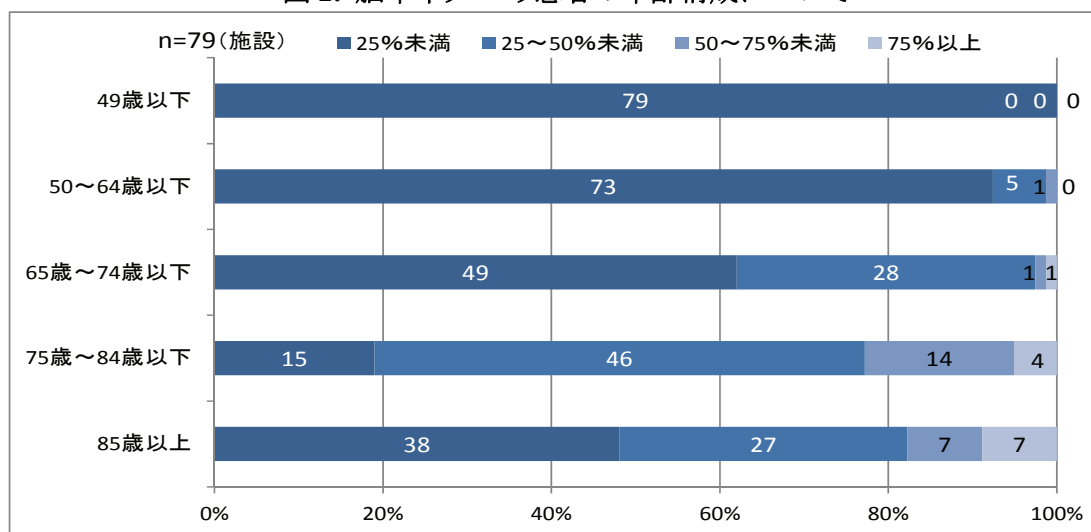
矢野経済研究所作成

注 1: 調査期間:2016年5月~6月、調査対象(集計対象):国内のリハビリテーション科を診療科に持つ病院 85 件、調査方法:郵送(留置)アンケート方式、単数回答

2.脳卒中リハビリ患者の年齢構成について

国内のリハビリテーション科を診療科に持つ病院(集計対象 79 件)に、脳卒中リハビリ患者の年齢構成について尋ねたところ、「85歳以上」の患者が 75%以上を占める施設が 7 施設、50~75%未満が 7 施設であった。また、「75~84歳以下」の患者が 75%以上を占める施設が 4 施設、50~75%未満が 14 施設と約 2 割の施設で 75歳から 84歳以下の高齢者が過半数を越えた。一方で、「49歳以下」の患者は全ての施設で 25%未満となっており、高齢者がかなり多いという結果になった。

図 2. 脳卒中リハビリ患者の年齢構成について



矢野経済研究所作成

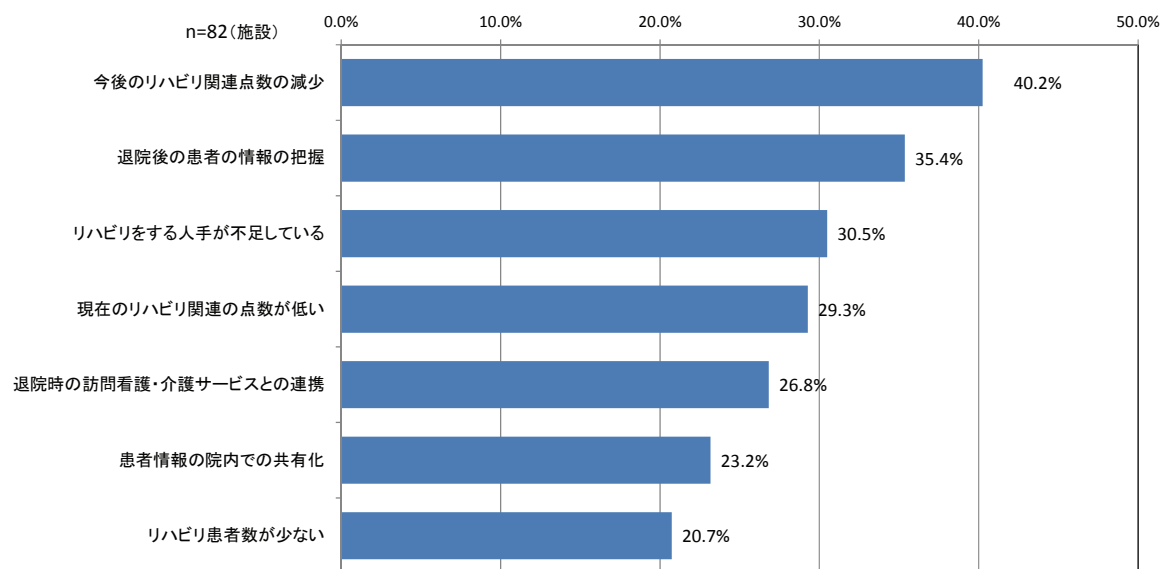
注 2: 調査期間:2016年5月~6月、調査対象(集計対象):国内のリハビリテーション科を診療科に持つ 85 病院のうち回答のあった 79 件、調査方法:郵送(留置)アンケート方式、各年齢層単数回答

### 3. 脳卒中患者のリハビリにおける課題・問題点について

国内のリハビリテーション科を診療科に持つ病院(集計対象 82 件)に、脳卒中患者のリハビリにおける課題・問題点について、当てはまるものを 3 つまで選択(複数回答)してもらった。回答が多かった上位 7 位までを図 3 に表記したが、「今後のリハビリ関連点数の減少」が 40.2%と最も高く、「退院後の患者の情報の把握」が 35.4%、「人手の不足」が 30.5%、「現在のリハビリ関連の点数が低い」が 29.3%、「退院時の訪問看護・介護サービスとの連携」が 26.8%と続いている。

現在のリハビリテーションの実施内容は、看護師や理学療法士、作業療法士らによる人的サービスであり、人手の確保とともに、さらに効率的な運営が求められていくとみられる。また、脳卒中リハビリ患者は高齢化しており、リハビリ終了後も恐らくは自宅もしくは介護施設と医療機関を往復することが多くなり、脳卒中治療やリハビリを実施した医療機関に戻ってくることは多くなる。そのため、退院時の訪問看護・介護サービスとの連携や退院後の患者の情報の把握など、多職種連携の中で情報共有しておくことが望ましいと考えられる。

図 3. 脳卒中患者のリハビリにおける課題・問題点(回答上位 7 位)について



矢野経済研究所作成

注 3: 調査期間: 2016 年 5 月～6 月、調査対象(集計対象): 国内のリハビリテーション科を診療科に持つ 85 病院のうち回答のあった 82 件、調査方法: 郵送(留置)アンケート方式、複数回答、回答上位 7 位までを表示

### 4. まとめ

団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年問題に関わり、脳卒中患者数は増えていくと考えられる。同時にリハビリ患者に占める脳卒中リハビリ患者の比率も徐々に高まっていく。現在の脳卒中リハビリの実施内容はいわば人的サービスであり、さらに効率的な運営が求められていくであろう。エアロバイクや運動マシンが導入されているところもみられるが、現在の診療報酬自体には、機器・用品の使用については設けられていない。リハビリロボットなど先進的な機器の使用は、リハビリ効果もさることながら、施設スタッフのモチベーションアップや医療機関の差別化といった効果についてもありえる。診療報酬の動向によっては、リハビリの機械化は検討されていくと予測する。

また、ヘルパー不足が深刻化すると言われる介護サービス業界と同様に、リハビリスタッフも不足することは想像に難くなく、診療報酬のない職場においても、リハビリテーションの専門家に対する雇用を要望されることも増えてくるであろう。医療現場においては、業務に忙しく、新卒のリハビリスタッフを一人前に教育するためにかける時間は乏しいと言え、今後の学校教育においても、より専門的で、実践的なリハビリテーションの内容を習得することが、医療・介護の現場で望まれていくと考える。

※参考情報(その他の病院アンケート調査結果)

「民間中小病院の経営状況に関するアンケート調査を実施(2016年)」(2017年1月27日発表)

<http://www.yano.co.jp/press/press.php/001647>